



船舶に係わる標準化に関するアンケート（2025年度）



2025年 9月29日
第44回標準部会

アンケートの実施概要

- ◆ 実施期間: 2025年 6月 25日～ 7月 28日
- ◆ 実施対象: 当協会の賛助会員及び標準部会(分科会、WGを含む)約200社(注)
(注) 団体賛助会員からその構成会員へ通知されているものは含まない。
- ◆ 回答数 : 54 (昨年度: 61、一昨年度: 73)

設問	質問内容	設問	質問内容
1	JIS F、ISO/IECの新規提案要望	5	船技協の標準化関連研修及びセミナーへのご意見・ご要望(テーマ)の募集
2	既存のJIS F、ISO/IECへの改正/改訂及び廃止要望	6	その他
3	新規原案の作成又は既存規格の改正/改訂作業に係る主導の可否(設問1.および2.に関連した設問)		
4	注目の新技術		

設問1: JIS F、ISO／IECの新規提案要望

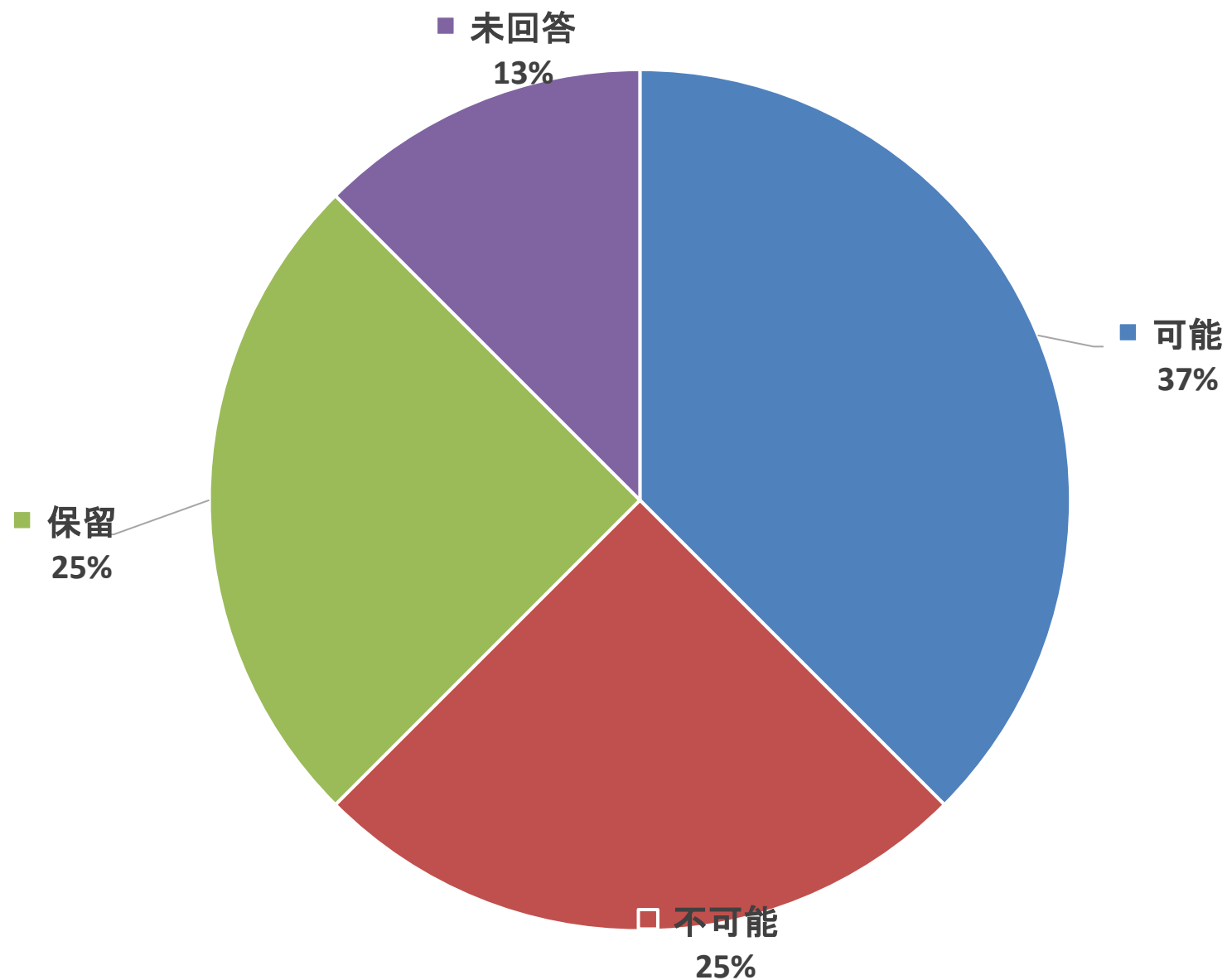
◆ 回答数(意見有) : 5

回答者	製品・試験名	概要	対応
検査機関	SEAKER	なし	2024年度調査研究を実施。 2025年度にWGを新設しJIS原案を作成中。
団体	船舶の燃料電池使用に関する規格	なし	一般社団法人日本電機工業会にて、日本主導によりIEC 62282-4-4011(燃料電池技術 -- 第4-401部:推進及び補助動力装置用燃料電池電力システム -- 海事分野 -- PEMFCシステムの安全性)を作成中であり、対応は行わない。
船主	NOxやメタンスリップの船上計測について	IMOで船上計測の議論が進んでいる為。	IMOで審議中の案件であるため、審議状況を見守る。
製造業者	アンモニアガス検知器のISO規格化。	CCC10で概要が決定した、アンモニア燃料船向けアンモニア毒性閾値(15章関連)を検知するアンモニアガス検知器のISO規格化。	2026年度調査研究候補として採用。
造船会社	艀装品の振動評価に対するガイドライン	艀装品の振動応答に対する評価指標の設定 及び 計測方法	2026年度調査研究候補として採用。

- ◆ 設問2: 既存のJIS F、ISO/IECへの改訂要望
- ◆ 回答数(意見有): 3

回答者	製品・試験名	概要	対応
団体	F2020、F2314、 F3418、F3421、 F3422、F7209、 F0406、F0811、 F5611、F7225等 の改正	引用規格の廃止に伴う改正	優先度をつけ、担当分 科会/WGにて順次改 正作業を行う。
製造業者A	JIS F 8069:1986, 船用電気設備一 第306部:機器一 照明器具及び配 線器具の改正	IEC 60092-306の最新版との整合	2024年度調査研究で 改正原案は作成済。 今後担当分科会/WG で審議を行い、改正を 行う。
造船会社 製造業者B	JIS F 8442 特殊 カーゴランプの改 正	現状は白熱電球をベースとした内容に なっています。昨今のLED化に伴い、LED をベースとした規格を追加すべき。	2026年度調査研究候 補として採用。 JIS F 8442の他、白熱球や 蛍光灯を対象とした船 内照明に関する既存 JIS Fが存在するため、 併せてLEDをベースと した規格に改正する。

- ◆ 設問3: 新規原案の作成又は既存規格の改訂作業に係る主導の可否(設問1.および2.に関連した設問)
- ◆ 回答数(意見有): 8(可能回答には要支援を含む)



◆ 設問4: 注目の新技術

◆ 回答数(意見有): 4

回答者	注目の新技術
船主A	船舶で使用するパソコンの耐振動性に関する基準
船主B	今後議論が必要な、船上CO2回収装置から回収したCO2量の計測や回収した成分の計測について
造船会社	風力補助推進関連技術
製造業者	アンモニア燃料船におけるアンモニアガス漏洩を、赤外線ガスカメラ方式検知器により広域監視し漏洩元を特定する技術。アンモニア燃料船運用後は乗組員の安全作業に効果を発揮する装備と考えるが、IMOガイドラインには、広域監視要件の詳細が定められていないため、これを補完する標準があれば望ましい。

- ◆ 設問5: 船技協の標準化関連研修及びセミナーへのご意見・ご要望(テーマ)の募集
- ◆ 回答数(意見有): 15

回答者	研修及びセミナーへのご意見・ご要望
検査機関	最新動向の紹介
団体 製造業者A, B, C, D, E, F	特にありません
製造業者G	EMCに関する技術セミナー等に興味がある
造船会社A	従来の研修及びセミナーを今後も継続して開催頂けますと幸いです。なお、現時点では特に新たな要望はございません
製造業者H, I	新燃料に関する規制
造船会社B	重要なISOやJISが更新されたときに簡単に解説してくれるような場があるとありがたい
製造業者J	Directivesの最新の改正やOSDについて、またそれらの注意点等について取り上げていただきたい
製造業者K	国際規格開発に対応できる人材育成につながる標準化研修に期待します

◆ 設問6: その他

◆ 回答数(意見有):14

回答者	ご意見
検査機関	良く対応されていると感じている
団体A、B 造船会社A, B 製造業者A, B, C, D, E, F	特にありません
製造業者G	新規規格、規格改正作業の主導について、標準化セミナーで具体的な説明や例をあげてハードルを下げて欲しい
造船会社C	ISOの動向の紹介を定期的にしてほしい
製造業者H	大変役に立っておりますので、引き続きの定期開催を何卒よろしく願いいたします